資料－1

第9回土岐川庄内川流域委員会　議事要旨

日時　：平成18年1月17日（火）13:30～17:00

場所　：名古屋逓信会館　3F 桐楓の間

１．開会

２．挨拶（中部地方整備局 庄内川河川事務所長）

３．議事

■第8回土岐川庄内川流域委員会議事要旨の確認

第8回流域委員会議事要旨が確認されました。

■庄内川水系河川整備基本方針について

平成17年11月に策定された庄内川水系河川整備基本方針について、報告を行いました。その中で、河川整備の計画のあり方などについて、次の意見をいただきました。

- 流域の開発により保水力が低下している一方、森林の保水力に関する研究も進んでいることから、それらの対策についても十分に議論する必要がある。
- “流域”委員会であるのだから、各県が管理している支川や流域の捉え方等についても把握する必要がある。
- 長い目で流域を見た時には、県・市町のほかに関係省庁なども入った上流から下流までの全体的な把握が必要である。
- 流域の保水力の保全を図っていくことは重要であるが、現段階では豪雨時における効果を見込むことが難しく、治水の計画に見込むのではなくプラスαで考えるべきである。
- まずは河川整備計画を策定し、河川の整備を進めながら、流域での現象を捉えるための検討は継続していき、計画に反映できるようになれば、その時点で計画を見直すことも考えられる。
- 流域委員会としても流域の問題については整備計画策定後も監視していくということも考えられる。
- 川も街も刻々と変化するとともに、整備されるまでには時間がかかるため、少しでも早く危険なところを整備するため、大きな見方で計画し、実行レベルでは柔軟に対応するのが今の時代のあり方だと思う。
- 上中流域の保水能力を回復するために、自助、公助、共助という様々な連携の形ができればよい。

・ 予算や時間等が限られる中で最善の策で河川の整備を行い、不十分なところは危機管理対策等を盛り込んで実施していく。その中で流域対策等についても、減災に向けて何が効果的かを議論していきたい。

■河川整備計画（治水）の目標・整備メニュー（案）について

コレカラプロジェクトレポートVol.1でまとめられた治水上の課題を踏まえ、現状と課題、河川整備計画（治水）の目標（案）及び整備メニュー（案）について説明し、次の意見をいただきました。

・ ハード整備が途上の中、完成するまでの間、ソフト整備によるフォローが極めて重要である一方、ソフト整備は人を動かし心を動かす難しい課題である。ソフト整備としての枠組みや組織づくりをどの様に担保するのか。
・ 流域の対策については、河川で直接できるものではないが、そういうことを議論する場が他にないため、ぜひ流域委員会でも議論する場を設けて、問題を指摘し、上流部や他の市町に理解を求めていく必要がある。
・ 流域の対策について、整備計画に盛り込む内容に限界はあるが、流域委員会として提言することは可能である。
・ 流域委員会として整備計画策定後も流域を見守っていくことが必要であり、流域対策など急いで盛り込めない問題については、整備計画策定後にでも議論することを考えていきたい。
・ 緊急性の観点からハード整備の議論を優先的に行い、ソフト対策については関係機関等と連携してどのように具体的に進めていくか議論して、流域委員会としての提言をまとめていくのがよい。
・ 整備水準を越えた場合の減災メニューの中に、整備水準を超える超えないに関わらずやらなければいけないこと、雨水貯留・浸透など豪雨時の効果とは直接関係のないメニューも混在しているため整理が必要である。
・ ソフト対策については十分に練れていないため、委員会で意見を出して整理していく必要がある。

■今後の進め方について

次のことが確認されました。

・ 第10回の流域委員会では、利水、環境、人との関わり等の目標・整備メニュー（案）について討議し、治水も合わせた形でコレカラプロジェクトレポートVOL.2を取りまとめていく。

４．閉会のあいさつ（中部地方整備局 庄内川河川事務所長）

５．閉会